

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	北海道開拓使大判官松本十郎の生涯及び業績に関する調査研究
------	------------------------------

研究代表者

氏名 佐藤 正光	所属 人文社会科学系 日本語・日本文学研究講座	職名 教授
-------------	-------------------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

一昨年来、松本十郎の自筆資料『松本家系譜』における家系の記述、及び幼少期から戊辰戦争、明治初期に至るまでの漢文体の自叙史を書き下し文に直し、さらに現代語訳した。これにより、(1)十代で父に従って庄内藩の所領である北海道浜益毛(北海道石狩市)に赴任した際の旅程、及び北海道滞在時の状況、(2)庄内(山形県鶴岡市)へ帰還した後、京都での攘夷運動による不穏な世情から庄内藩が江戸警護の命を受け、その警備隊の一員として江戸(東京都)に滞在した経緯と江戸での状況、(3)伏見戦争の幕府軍敗北により江戸守護職を辞退し帰藩を命じた藩主に従って郷里に帰り、戊辰戦争に従軍した経緯とその状況、(4)明治初期の北海道開拓使任命に到る状況等を明らかにした。

一方、松本家の子孫である松本孝敏氏より寄せていただいた調査資料等の整理を行った。また、秋田市で行われた中唐文学会、日本中国学会に参加し、情報収集を行ったほか、松本十郎の故郷山形県鶴岡市に2度訪問し、鶴岡市立図書館、致道博物館で資料収集等を行った。

以上のように、『松本家系譜』を主とした読解作業と、それを裏付ける上で重要な資料調査、情報収集を重点研究費配分期間に実施することができた。だが、当初の予定では昨年度明らかにした松本十郎の江戸末年における北海道での行跡を確認するため、東北から北海道への実地調査のために予算を計上したが、残念ながら時間的余裕がなく実現することができなかった。

『松本家系譜』について、明治5年の北海道開拓使就任から明治9年の北海道開拓使大判官を辞職するまでの、松本十郎の伝記について最重要期間の翻訳と考証をさらにを行うため、研究を継続したいと考えている。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]
 ※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

一、二年以内に翻訳を完了し、書籍として刊行したいと考えている。